

【秋の見学会参加記】

二〇一八年度 秋の見学会に参加して

―旧千住宿を歩く―

角田 朋彦

平成三十年度の駒沢史学会秋の見学会が、十一月二十五日(日)に行われた。平成最後の見学会は、当会委員吉岡諭氏の案内のもと旧千住宿を巡るものであり、参加者は総勢九名であった。

旧千住宿は、文禄三年(一五九四)に荒川(現隅田川)で最初の橋となる大橋(千住大橋)が架けられてから発展を始める。慶長二年(一五九七)に人馬継立の地に指定されて千住町となり(本宿)、万治元年(一六五八)に掃部宿・河原町・橋戸町が、同三年には大橋の南側に位置する小塚原町・中村町が千住宿に加えられ、南北に三十五町の町並みを持つ宿場となっていた。日本橋からは二里八町の位置にある日光道中最初の宿場であり、ほかに水戸・佐倉道・下妻道などの結節点でもあった。文政四年(一八二一)の調べでは、江戸に参勤する大名のうち、日光道中で四家、奥州道中で三十七家、水戸道中で二十三家、合計六十四家が千住宿を往来しており、北関東・奥州方面の玄関口に当たる賑わいを見せた宿場であった。戦災とその後の都市化によって街はずっかり姿を変えたが、宿場時代の町割りをそこかしこに残し、また往時と変わらない賑わいを見せている。

さて、見学会は北千住駅に十三時三十分の集合で、街道筋を見

学しながら北上、名倉医院長屋門を見てから南下し、やつちや場跡から再び北上して、十七時頃に北千住駅で終了した。その主な見学場所・コースは次の通りである。

北千住駅↓本陣跡↓旧地漣紙問屋横山家住宅↓長円寺・漁監
観音↓氷川神社↓名倉医院長屋門↓勝専寺↓河原町稲荷神社
↓やつちや場跡↓源長寺・石出掃部亮吉胤墓↓問屋場・貫目
改所跡↓北千住駅

これらはみな千住大橋の北側、旧千住宿の中心地となる部分である。この他にも、水戸・佐倉道や下妻道との追分・千葉サナ灸治院跡・内田銀蔵生家・掃部堤跡・一里塚跡など、移動する途中でも標柱や説明板が建つ各所のポイントを確認している。

以下で、これらの中から普段見ることができないが、所有者の御厚意により拝見することができた場所二か所について詳述しておきたい。

一軒目は旧地漣紙問屋横山家住宅である。格子窓を持ち、棧瓦葺きとなつている二階建ての建物は伝馬屋敷の面影を今に伝えるもので、現在は足立区の登録有形民俗文化財(建築)となつている。敷地の間口が十三間なのに対して奥行きは五十六間と長くなつて

いるのは、宿場によく見られる町割りを示している。また、戸口が道路面より一段低く造られているのも特徴的である。

通常は非公開となつている住宅内部だが、まずは土間・帳場で御主人のお話を伺った。横山家の屋号は松屋。近隣の農家から再生紙の原料の調達や製造の発注・取引を行ってきた地漣紙問屋で、日本橋方面へ売り捌いていたとのことであった。明治十七年

（一八八四）八月に三舟の一人山岡鉄舟が筆を執り「地漣紙間屋」と書いた看板が、土間に掲げられていた。母屋外側の柱には、慶応四年（一八六八）の上野戦争で敗北し逃走を図った彰義隊士による刀傷が三か所残されている。もともとは表に出ていて自由にすることができたが、現在は外側に塀を囲ってしまい見学が不可能となってしまっており、これも貴重なものといえよう。

その後、土蔵の内部も拝見させていただいた。これも通常は非公開である。地紙漣問屋時代の印鑑や、表面が版木となっている火鉢など、興味深いものがまだ残されていた。なお、土蔵は数棟あったそうだが、現在敷地内には一棟だけとなっている。ただし、土蔵の一棟がやっちゃ場跡に設けられた「千住宿歴史アチテラス」に移築されており、ミニ展示会などに利用されている。

二軒目は勝専寺である。三宮神山大鷲院勝専寺と号す浄土宗の寺院で、新井兵部政勝を開基、勝蓮社専阿を開山とし、文応元年（一二六〇）に創建されたと伝えられている。本尊は阿弥陀如来。朱塗りの山門から「赤門寺」として親しまれている。江戸時代には、徳川秀忠の鷹狩りで休息所となったり、家光のときには境内に御茶屋御殿が造営され、家綱の日光社参では飯御殿が造られるなど、将軍家を利用してきたという由緒を持っている。また日光門主の本陣御用を勤めていたとのことである。

勝専寺では、御住職の案内と説明により、やはり通常は非公開となっている仏像などを拝見することができたので、いくつか紹介していきたい。

まず、位牌堂に安置されていた像高二四センチメートルの木

造千手観音立像である。この像は、開基新井政勝の父正次が荒川の底から引き上げたとの伝承を持ち、この「千手」が「千住」の地名の由来になったともいわれている。現在は足立区の登録有形文化財（彫刻）となっている。その脇に安置された厨子には、大鷲釈迦如来像が納められている。この像は、寛永年間（一六二四～四四）に徳川家光から寄進されたものと伝え、大鷲に乗る釈迦如来という非常に珍しい像容である。足立区花畑大鷲神社の「本西」、台東区下谷鷲神社の西の市の「新西」に対し、勝専寺のこの像は「中西」として親しまれ、広く知られた像である。徳川家治の御成があつたときには、この像に白銀二枚が下賜されたともいう。

次に場所を移して冑付具足（当世具足）を拝見した。この当世具足は千住の商人高橋繁右衛門が秘蔵していたものといい、檀家から寄進を受け勝専寺で保管しているもので、昭和五十九年に足立区の登録有形文化財（工芸品）となっている。ほかにも歴史史料として有形文化財に登録されている板碑三基なども拝見した。

以上が特別に拝見させていただけたものである。この見学では貴重な文化財を拝見する機会を得ることができ、非常に学ぶことの多い一日となった。今次見学会で案内の労をとられた吉岡氏をはじめ、関係者各位に感謝申し上げます。

最後に、見学会の終了後、例の如く開かれた反省会は二次会まで続き、その後さらに有志で行われた三次会は午後一〇時四五分でお開きになったことを記し添えておく。